

氏 名 (本籍)	フィガー、レジー カパシオ (フィリピン)
学 位 の 種 類	博 士 (学 術)
学 位 記 番 号	博 甲 第 5613 号
学位授与年月日	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	人文社会科学研究科
学 位 論 文 題 目	Capitalizing the Net : Building Filipino Diaspora in Japan (日本在住フィリピン人ディアスポラの社会資本の構築とネット空間)
主 査	筑波大学准教授 博士 (教育学) 海 後 宗 男
副 査	筑波大学教授 仲 田 誠
副 査	筑波大学准教授 博士 (国際政治経済学) タック川崎 レスリー
副 査	筑波大学准教授 Ph.D. (社会学) フォーシェ キャロル
副 査	国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科教授 博士 (教育学) 佐々木 輝 美

論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は、日本在住のフィリピン人労働者・滞在者のインターネット利用とソーシャル・キャピタル（社会資本・社会関係資本）の形成の関連性の考察を試みるものである。日本在住のフィリピン人の現状がどのようなものか、その実態とともに、インターネット上の仮想コミュニティを定量的に分析し、コミュニティの電子掲示板の内容を定性的な手法で分析し、ソーシャル・キャピタルの理論と過去の情報通信技術の社会的利用の先行研究等を基盤とし、研究を構成している。

社会学、政治学、経済学、経営学において、人間のもつ社会的資源の「資本」として、文化資本や経済資本とともに、人間がその構成要素となるソーシャル・キャピタルがあると考えられている。本論文では、このような人と人の間に存在する資源が人々の協調行動を促し、社会を効率よくしているとの見地に立ち、また信頼、規範、ネットワークといった社会的仕組みがソーシャル・キャピタルを作り上げているという考えを基盤としている。人々が様々な社会問題に直面したときに交流することで、人間関係や人同士の付き合いがソーシャル・キャピタルを築き、諸コミュニケーション行動が社会資本構築へとつながる。

本論文は、単なる日本在住フィリピン人のメディア利用の調査研究ではなく、ネット空間に構築されるソーシャル・キャピタルの一連の先行研究と日本在住フィリピン人のディアスポラの現状を組み合わせる諸問題のメカニズムを捉えている。つまり、フィリピン人ディアスポラ（祖国等を離れて暮らす民族の集団やコミュニティ）のソーシャル・キャピタル構築とネット空間という新たな研究分野の出発点という位置づけである。

第 1 章では本論文全体の展望と構成を紹介する。フィリピンの国内の諸事情とフィリピン人のディアスポラの現状をデータに基づき解説し、日本在住フィリピン人の近年の推移と労働環境、入国査証の諸問題を記述する。次に、ネット空間と社会関係資本の関係性と研究の概念要素・フレームワークと研究課題を明示し、この研究によって何をどこまでどのような方法で明らかにするか、また、その予測と意義を示す。

第2章ではディアスポラとフィリピン人、ネット空間、宗教の関連性、ソーシャル・キャピタル、コミュニケーション行動と公共圏等、関連する先行研究の文献を整理・紹介し、統合する。日本在住フィリピン人ディアスポラのソーシャル・キャピタルの構築とネット空間がどのように関連するか、定義する。

第3章では、本論文の研究方法を解説する。本論文は定性的手法と定量的手法という異なる研究手法を用いることによって、双方の利点と限界を補い、より総合的に研究テーマを捉えるための工夫や手法を考案している。研究対象となったインターネット上の仮想コミュニティの電子掲示板の選定基準とそのコミュニティの実態を解説し、掲示板のテキスト分析やインタビュー等の定性的調査、コミュニティ構成員へのインターネット調査や掲示板の内容分析を組み合わせる利点を指摘する。それは実用性、応用性、実証性を可能にしながらも物事を過剰に単純化せず、複雑な物事に関する総合的な判断が両立すると主張する。

第4章では、日本在住フィリピン人ディアスポラがネット空間コミュニティを通して「故郷」に戻れるという感覚を共有していることに着眼し、その仕組みがどのように構築されているかを考察する。日本在住フィリピン人ディアスポラが日常的に経験する居場所の無さ、帰る場所の無さの中、ネット空間での交流と空想の力が合わさり、ネット空間内の祖国というものが構築される。日本に滞在しながらネット空間内での「思い出作り」が仮想コミュニティを強化し、日本社会に溶け込むことを目指すと同時に、フィリピン人の仮想コミュニティにおける「故郷」への想いを共有する。さらにフィリピン人の文化的なアイデンティティにとって重要な要素として宗教と信仰がある。これに関する交流においても、ネット空間が重要な役割を担っていることが明らかになった。ネット空間内の宗教・信仰の交流の場は教会等の礼拝の代理にはならず、むしろ祖国の日常的な宗教・信仰に関する談話を可能にする、聖なる場所という働きがある。つまりネット空間は故郷を想う場でありながら、同時に一種の聖域としても機能する。

第5章では、日本在住フィリピン人ディアスポラ内のオンライン上の社会支援の実態を明らかにする。フィリピン人が日本に適応するために直面する生活上の問題は様々あるが、なかでも諸事情によってオーバーステイになってしまった場合、つまり不法残留は日本在住のフィリピン人にとって深刻な事態である。ネット空間では、その救援・支援、残留の許可に関する情報交換が行われる。実社会では不法残留者として罰せられる可能性があるため、ネット空間がソーシャル・キャピタルへのリンクとなり、また、相互信頼が高められていく。

結論では、日本在住フィリピン人ディアスポラのネット空間のソーシャル・キャピタルがネット空間内の「故郷」への想いの構築とオンライン上の社会支援ネットワーク作りによって構成されることを検証し、理論との対応を論じる。また、今後のフィリピン人ディアスポラのソーシャル・キャピタル構築とネット空間に関する研究の可能性についての展望を示す。今後も各国においてフィリピン人ディアスポラの増加が予想できるため、出発点となった本論文のテーマが重要な学問領域になるであろうと示唆する。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、少子高齢化とグローバリゼーションを迎える我が国の移民政策を考察する上で先駆的な研究である。外国人労働者、特にフィリピン人労働者や滞在者が直面する様々な問題を明らかにするとともに、インターネット空間における人と人の間のネットワークがはたす精神的サポートの役割や、異国の社会で生活する上で必要になる支援のシステム、コミュニティ内のコミュニケーション活動とその結果を、ダイナミックかつ丁寧に考察する力作となっている。

著者は、フィリピン人のディアスポラやソーシャル・キャピタル、ネット空間利用など本研究テーマに関連する先行研究の基礎調査において、真摯な努力を費やしている。それらの文献は本論文における著者の主張を裏付ける重要な資料として論文全体において十分活用されている。このように、自らの研究に対して著

者が示した熱意は、今後、研究者としての資質を示すものとして、高く評価できる。

また本論文は、インターネット上の仮想コミュニティのメンバーのインタビューと調査、掲示板などの定性的な手法による分析と内容分析、推測統計学を用いた実証的手法など、定量的・定性的研究法を乖離させることなく融合させており、特筆に値する。

本論文の大きな功績は、日本在住フィリピン人ディアスポラがネット空間内で祖国への想いを共有し、オンライン上の社会支援ネットワークを形成している実態が明らかになったこと、そしてネット空間内で日常的な宗教・信仰に関する談話という交流を通して、ネット空間が一種の聖域としての働きがあることが明らかになったことである。すなわち、インターネットの仮想コミュニティが現在日本在住フィリピン人ディアスポラにとって、特に精神的サポートという不可欠な働きを担っていることが明らかにしたことにある。これにより、本論文は、インターネット上の仮想コミュニティ問題を指摘する従来の研究とは一線を画し、新たな知見をもたらしている。本論文の手法は、今後フィリピン人ディアスポラが在住する各国を分析する際、研究の範ともなりうるものである。

審査員からは、本研究のインターネット・コミュニティの選定方法やコミュニティ構成員の性別、コミュニティの成り立ちと関連して宗教の役割、フィリピン人ディアスポラの家族関係や国民性の表現方法、フィリピン人社会とソーシャル・キャピタルとの関連性、インターネットの文化や制度・異なる社会階級からの参加の可能性と民主性などに関する質疑があり、著者からの応答があった。また、本論文の残された課題としては、定量的な研究部分やオンライン上のソーシャル・キャピタルに関する独自の視点やさらに深い考察の余地があるだろう。しかしこれは、本論文の高い学術的価値ゆえに期待される今後の課題であり、著者の洞察力や研究者としての将来性がこの論文に示されているとの指摘があった。

よって、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。